

令和4年度 予算

一般会計予算額は、218億4,000万円で、前年度の当初予算額207億4,500万円より、5.3%の増となっています。ただし、前年度は市長選挙に伴う骨格予算(義務的な経費など最小限の予算)として編成していたため、肉付け(政策的な経費などの予算計上)を行った6月補正後の予算額213億2,499万9千円と比較すると2.4%の増となります。

特別会計予算額は、109億6,404万1千円で、前年度の予算額(6月補正後)109億9,836万6千円より、0.3%の減となりました。

また、公営企業会計予算額は、32億7,253万8千円で、前年度の予算額(6月補正後)32億8,805万8千円より、0.5%の減となりました。

一般会計・歳入

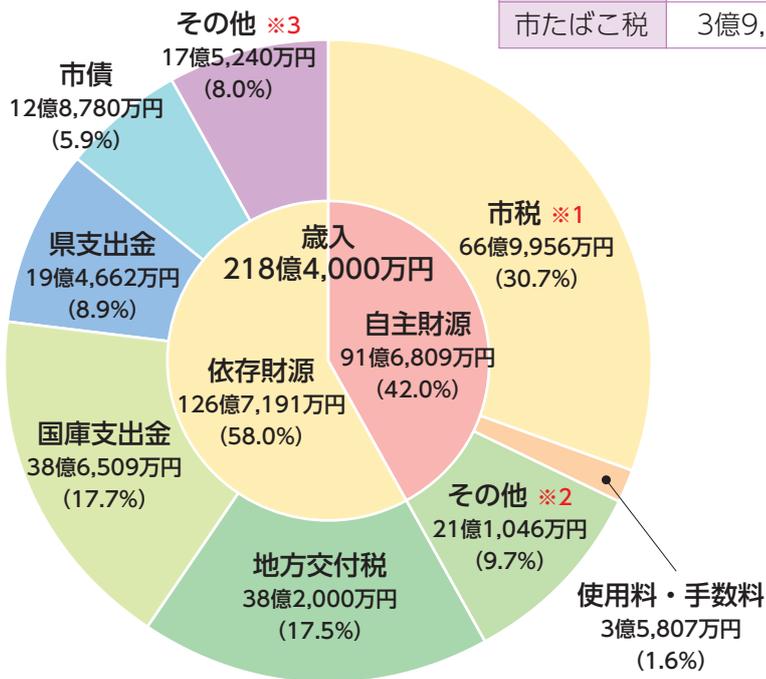
歳入の根幹となる市税は、前年度(62億5,527万円)から7.1%増となり、地方交付税は、前年度(37億2,000万円)から2.7%の増となります。

※1 く市税の内訳

市民税	33億2,413万円
└─ 個人	29億9,619万円
└─ 法人	3億2,794万円
固定資産税	28億1,718万円
軽自動車税	1億6,735万円
市たばこ税	3億9,090万円

※2 く自主財源：その他の内訳

分担金・負担金	2億673万円
財産収入	8,364万円
寄附金	7億200万円
繰入金	9億453万円
諸収入	2億1,356万円



※3 く依存財源：その他の内訳

地方譲与税	2億1,810万円
利子割交付金	400万円
配当割交付金	2,900万円
株式等譲渡所得割交付金	5,500万円
法人事業税交付金	7,000万円
地方消費税交付金	12億5,200万円
ゴルフ場利用税交付金	1,900万円
環境性能割交付金	3,900万円
国有提供施設等所在市町村助成交付金	800万円
地方特例交付金	4,830万円
交通安全対策特別交付金	1,000万円

用語の解説

市税

皆さんから市に納めていただいた税金(市民税・固定資産税など)

使用料・手数料

あすてらすや運動公園などの使用料や住民票発行などの手数料

地方交付税

国が徴収する税金の中から市の財政状況に応じて交付されるお金

市債

事業を行うために市が借り入れるお金

自主財源

市税や施設の使用料など市が独自に調達するお金

依存財源

国・県などの制度により交付されるお金

特別会計

特定の収入を特定の支出にあて、一般会計と経理を別にして運営する会計

公営企業会計

民間企業と同様の会計基準に基づき、発生主義、複式簿記を採用して運営する会計

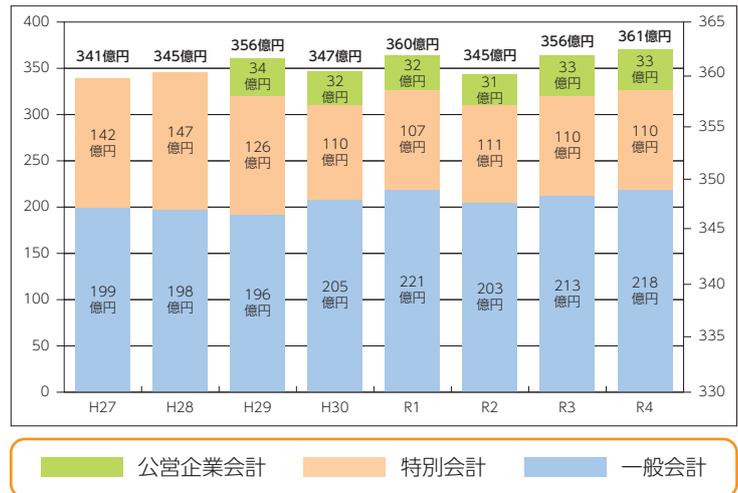
当初予算規模

◇一般会計	218億4,000万円 (2.4%増)
◇特別会計	109億6,404万1千円 (0.3%減)
〈内 訳〉	
●国民健康保険事業特別会計	54億1,986万4千円 (2.3%減)
●後期高齢者医療特別会計	10億6,838万4千円 (2.7%増)
●介護保険事業特別会計	44億5,650万7千円 (1.5%増)
●住宅新築資金等貸付事業特別会計	1,098万6千円 (0.7%増)
●工業団地整備事業特別会計	830万円 (±0%)
◇公営企業会計	32億7,253万8千円 (0.5%減)
〈内 訳〉	
●下水道事業会計	
収益的支出	17億3,296万7千円 (0.1%減)
資本的支出	15億3,957万1千円 (0.9%減)
◇予算総額	360億7,657万9千円 (1.3%増)

※()内は前年度比増減率、ただし前年度は6月補正予算額を使用

予算の推移

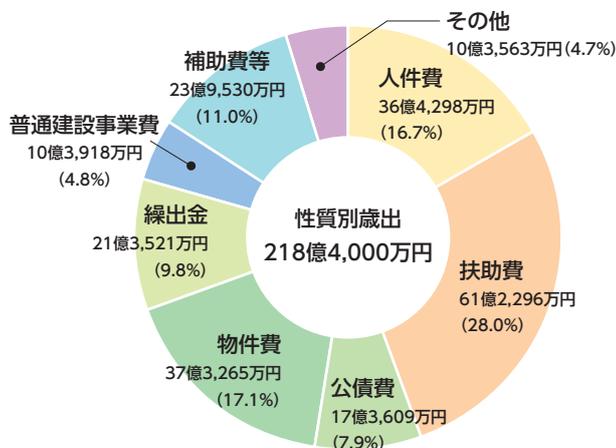
※一般会計当初予算が骨格予算の場合は、6月補正後(肉付け後)予算を使用



一般会計・歳出

●性質別歳出

義務的経費(支出が義務付けられ任意に削減できない経費、「人件費」・「扶助費」・「公債費」の合計)が、52.6%と全体の約半分を占めています。



～性質別歳出～

人件費

職員や特別職の給与、議員や各種委員会委員の報酬に使うお金

扶助費

生活保護費、児童手当、医療費などに使うお金

物件費

委託料、光熱水費、備品購入費などに使うお金

繰出金

各特別会計に対する一般会計からの支出に使うお金

普通建設事業費

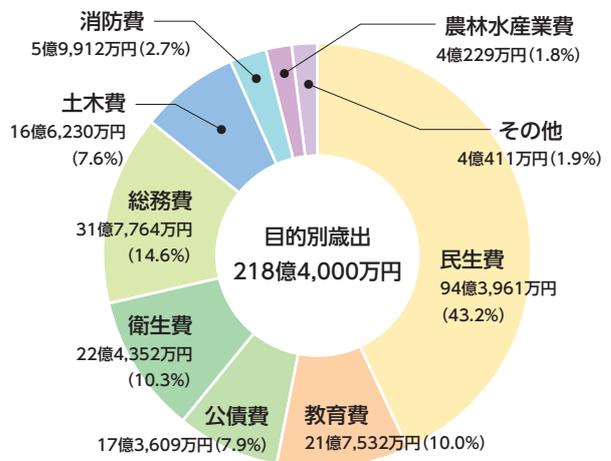
道路・橋梁などの整備や公共施設の新設増改築などに使うお金

補助費等

団体への補助金や負担金に使うお金

●目的別歳出

社会福祉や高齢者、児童福祉などに使われる「民生費」が43.2%と最も高い割合を占めています。



～目的別歳出～

民生費

福祉全般の事務・事業に使うお金

教育費

小・中学校の運営費用、図書館など教育全般の事務・事業に使うお金

公債費

借り入れたお金を返済するためのお金

衛生費

感染症予防、成人保健、母子保健や環境保全、ごみ処理などに使うお金

総務費

課税徴収、選挙など市の総括的な事務に使うお金

土木費

都市基盤整備や道路、公園、河川などの維持管理・改良などに使うお金

主な事業について

令和4年度当初予算は、新型コロナウイルス感染症対応関連事業や治水対策などに重点を置いて、以下のような事業を予算計上しています。

新型コロナウイルス感染症対応

★新生児子育て応援臨時給付金事業

4,515万4千円

感染症の拡大などで先が見通せない状況であっても、出産後の経済的な不安を軽減し安心な子育てにつながるよう、令和4年4月～令和5年3月末に生まれる新生児1人につき10万円を給付します。

治水対策事業

★河川維持補修事業

7,994万5千円

市営河川(鎗巻川・石原川)流域内の農業用ため池や公共施設用地を雨水調整機能として活用するため、流域治水基本計画を策定します。また継続事業として河川・調整池の浚渫(しゅんせつ)や護岸工事などを行います。

市制施行50周年事業

★記念式典事業

650万円

令和4年4月1日に迎えた市制施行50周年を市全体で盛り上げるため、令和4年11月3日文化の日に記念式典を開催します。

官民連携と自治体DX事業

★行政手続を見直し「かんたんに手続ができる市役所」へ

1,623万3千円

マイナンバーカードを用いて、転出・転入手続や介護・子育てに関連する一部の手続を、オンラインで可能にするためのシステム構築・改修を行います。

土地利用の再編による「活力ある確かなまちづくり」の推進

★インター周辺まちづくり構想(案)作成

400万円

市の交通利便性を生かした、企業誘致と住宅誘致の推進、農業の課題解決に向けての土地の利活用など、今後の土地利用方針とまちづくり構想の作成を行います。

令和4年度一般会計予算を家計簿に例えてみると

令和4年度一般会計予算を家計簿に置き換えました。予算額の規模が大きいので、分かりやすくするために、規模を4,000分の1に縮小しています。

※令和3年度一般会計当初予算は骨格予算のため、前年度比は6月補正後(肉付け後)予算と比較



収入		前年度比
給料(市税)	168万円	(+12万円)
給料(諸手当) (地方交付税や地方譲与税など各種交付金)	138万円	(+5万円)
実家からの援助(国・県補助金)	146万円	(+4万円)
パート・家賃収入 (分担金・負担金・手数料・使用料)	14万円	(±0万円)
貯金の取崩(繰入金)	23万円	(▲3万円)
銀行からの借入(市債)	32万円	(▲6万円)
雑収入(財産収入・諸収入・寄附金)	25万円	(+1万円)
合計	546万円	(+13万円)

支出		前年度比
食費(人件費)	91万円	(▲4万円)
医療費・養育費(扶助費)	153万円	(+10万円)
ローン返済(公債費)	43万円	(▲1万円)
家の増改築など(投資的経費)	26万円	(▲3万円)
家や車の補修(維持補修費)	3万円	(±0万円)
子どもへの仕送り(繰出金)	68万円	(+2万円)
保険料など (補助費等のうち一部事務組合負担金)	27万円	(▲1万円)
光熱水費・通信費・雑費など (物件費)	93万円	(+8万円)
区費やサークル・会合への会費など (補助費等)	23万円	(+1万円)
貯金(積立金)	18万円	(+1万円)
その他支出(投資及び出資金、予備費)	1万円	(±0万円)
合計	546万円	(+13万円)

収入では、コロナ禍からの景気回復を見込み、給料(市税)が増となりました。

支出では、障がい福祉サービスなどの充実により、医療費、養育費(扶助費)が増となりました。

一般会計予算の推移(内訳)

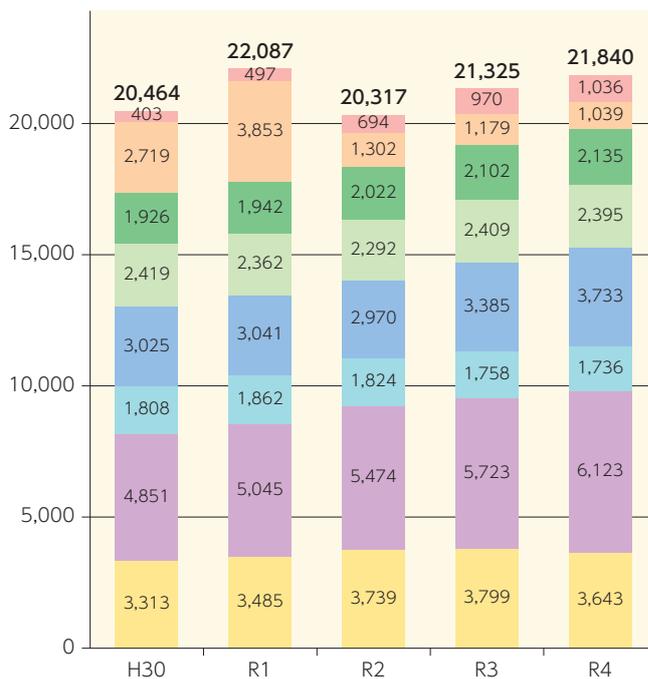
【歳入】

単位：百万円



【歳出】

単位：百万円

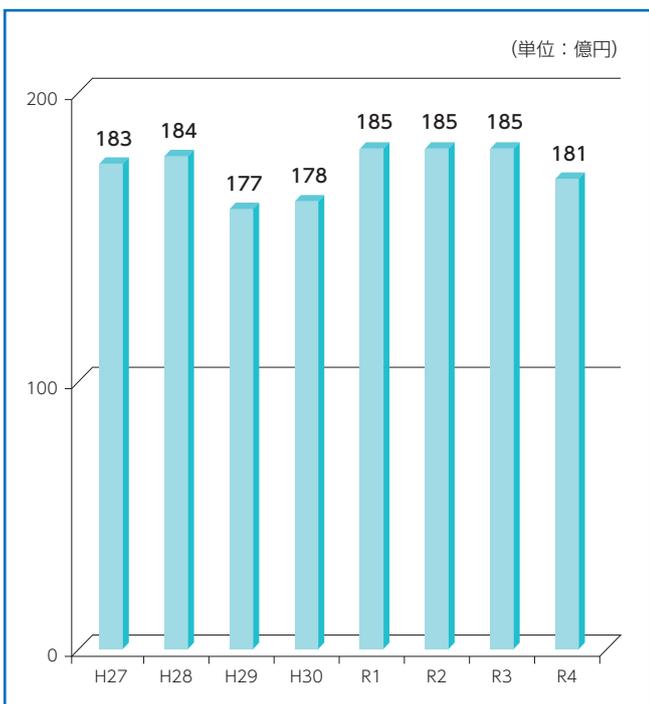


市債残高の推移(一般会計)

市債は、道路や公園、学校施設などを整備する際に借り入れるお金のことで、市の「借金」にあたるものです。

令和元年度に策定した緊急財政対策計画に基づき普通建設事業費の抑制をしており、近年の市債残高は横ばいで推移しています。

令和4年度末の市債残高は181億円となる見込みです。



基金残高の推移(一般会計)

基金は、市の「貯金」にあたるものです。

令和2年度は、ふるさと寄附金の増加でまちづくり支援基金への積立を行ったことや、財政調整基金への積立も行っていることから、令和元年度と比較して基金全体の残高は増加しました。

令和4年度末の基金残高は37億円となる見込みです。

